

新年度を迎え、気持ちを新たに人権について考える



ワクチン接種が始まったものの、まだ収束が見えない新型コロナウイルス感染症ですが、感染者や医療従事者、その家族などに対する誹謗中傷やいじめなど、心ない行動は人権侵害に他なりません。

自分だけがよければよいという意識が根底にあり、また、自分が正しいと思うことに対していき過ぎた考えが、自警団や自肅警察という身勝手な行動にもつながっています。

新型コロナウイルス感染症に限らず、有事にはみんなが協力して他人を思いやり行動することが求められます。

新年度を迎え環境が変わり、人との出会いも多くなります。そんなときにも人権意識が求められます。フィルターを通して見ることなく、尊重し思いやる気持ちを持つことで、人は心を開きます。鏡のようにこちらが警戒すれば警戒するし、偏見を持たれば偏見をもたれます。この新年度の時期に、あらためて人権について考え、意識を高く持ってみたいはいかがでしょうか。私どもも、気持ちをあらたに、まずは自分を見つめ直し、人権啓発を進めて参ります。

横断歩道は歩行者の“聖域”です

【山梨県内】信号機のない横断歩道で止まらない車は6割強

JAF(一般社団法人・日本自動車連盟)は昨年10月、信号機のない横断歩道における歩行者優先についての全国実態調査結果を発表しました。山梨県内では、一時停止した車の割合は35.8%。全国平均(21.3%)を上回る全国6位でした。それでも6割強が依然として交通ルールを守っていないこととなります。

筆者の経験でも、信号機のない横断歩道の手前で一旦立ち止まったとき、車がそれを無視して通りすぎてしまうことが度々あります。

道路交通法では、横断歩道における「歩行者優先」を定めています。横断歩道に歩行者がいる場合、または横断しようとする歩行者がいる場合は、手前で車を一時停止し、歩行者の通行を妨げてはいけません。

また、横断歩道の周辺に歩行者がいないことが明らかな場合を除き、横断歩道に近づいたら、その手前で停止できるよう速度を落とさなければいけません。

ちなみに、多くの横断歩道の30m手前や50m手前には“◇(ダイヤ)マーク”の道路標示があります。これは、その先に横断歩道または自転車横断帯があるという印です。



車のハンドルを握ると性格が変わる？

多くの運転者が、横断歩道は“歩行者優先”と分かっているが、その手前で徐行したり一時停止をしない人の割合がまだ多いのはなぜでしょうか？

その要因のひとつに、“ドレス効果”(心理学の概念)があるとされています。人は、身に着ける「服」の種類(例:制服、高級な服、等)により、自分の態度や相手の評価に違いが生じやすいという学説です。服の延長線上に、車や肩書などがあります。特に、自分がパワーのある車や高級な車に乗った場合、その車の強さや優越性を無意識のうちに自分自身と重ね合わせてしまうことが起きやすいのです。

このように、とかく万能感を抱きやすい自動車の運転では、常に謙虚な気持ちを忘れないようにしたいものです。

<ご参考>

山梨県警ホームページ「道路横断中の歩行者事故防止」(下欄に、分かりやすい啓発動画が5つ掲載されています。)



人権移動教室の授業を受けた子供たちの感想文が、裏面にご覧いただけます。



国連 NGO 横浜国際人権センター山梨ブランチ
特定非営利活動法人横浜国際人権センター山梨

会長：横山隆史

〒400-0031 山梨県甲府市上町 601-4 甲府市環境センター内 なでしこ工房 1 階事務室
TEL. 055-243-8563 FAX. 055-243-8564 <http://yamanashi.yihrc.or.jp/> E-mail. yamanashi@yihrc.or.jp

協賛企業：(株)成心設備、西関東開発(株)、(株)ウィルマート、(株)R&C、(株)フジコー、(株)渡辺工業所、甲府市管工事協同組合

<協賛>
山梨県
甲府市
甲斐市

山梨大学教育学部附属中学校 (女子)

人権移動教室を終えて

今回は、人権について考える話をしていたとき、本当にありがとうございました。

私は、人権教室を通して、考えたことがたくさんあります。

まず、人権とは何か、ということについてです。人権とは、命と幸せを守ることだと知りました。また、自分の命や幸せを守るためには、人の命や幸せを守ることが大切だということも、知れました。

私は、学校に来る時に、電車を使っています。その時、お年よりが乗ってきて、席をゆずる勇気はありませんでした。「本当はゆずらなきゃいけないけれど、なかなかできませんでした。しかし、今回の教室を通して、今までゆずれなかった自分がはかばかしく思えてきました。これからは、席を勇気を出して、ゆずりたいと思います。

そして、何よりも響いたのは、「国境なき医師団」のことです。国境という壁を超えて、人のためになることをやる方は、とてもか、こが、たです。私も将来、仕事について、「人のためになることをや、ている、と、自信を持って言えるようになりたいです。また、私が普通にできて

いる、やれていること、世界にはできない、やれない人もいるということも忘れずに、これから生活していきたいと思っています。



人権移動教室に参加した子どもたちの感想文をご紹介します。

山梨大学教育学部附属中学校 (男子)

人権移動教室を終えて

僕は今回の人権移動教室を終えて、考えが変わりました。それは前まで、人権という言葉を知ると、憲法のことなども想像してしまい、とても難しい事だと思っていました。しかし、杉藤さんの話を聞いて、人権とは命と幸せを守る事だと分かりました。そして、人の幸せを守る事は人の人権を守る事と同じだと思いました。そのために世界で活躍している「国境なき医師団」の存在を知りました。その方達は命をかけて、世界で困っている人を助けていると聞いて、自分にたとえてみると、そこまで人を助けることはできないと思いました。なので、とてもすごいと思いました。他にも、世界の人々を助けている。まだ僕達の知らない団体はたくさんあると思います。そんな方達が知らない戸を、こんなにたくさんの方々の努力を、僕もどこまで尊敬します。でも、また、僕にはこのような大きな事はできません。けれど、他の人の幸せ、他の人の命を守る事、人権を守ることに、少しでも近づけるように、まずは身近な人達への気配りや思いやりを、これからは大切にしていきたいと思いました。

